

V 教育課題

第10分科会 健康

研究課題 たくましく生きる心と体を育む健康教育と 校長の在り方

分科会の趣旨

社会環境・生活環境の変化は、人々の生活様式に大きな影響をもたらしたばかりでなく、子どもたちの心身への影響も大きく、体力・運動能力の低下をはじめ、ストレスや肥満傾向の増加、生活習慣病への危険性の高まりなど、様々な健康問題を引き起こしている。また、日常生活が便利になったことにより、基本的な生活習慣や食生活の乱れなどの問題も生じている。

こうした状況の中で、子どもたち一人一人に健康についての関心を高め、健康であることの意義を認識させるとともに、自らの健康を適切に管理し改善する能力を培うことは重要な課題である。

また、子どもたちが健全な食生活を営むことは、健康で豊かな人間性を育てていく基礎となることはもちろんのこと、今後とも、我が国が活力と魅力にあふれた国として発展し続けていく上でも大切であり、食育の重要性が大きく叫ばれるゆえんでもある。

これらのことを踏まえ、学校での教育課程における指導とともに、各家庭やPTA組織及び地域の役割を明確にするなど、学校・家庭・地域の密接な連携・協力が必要と考える。

本分科会では、これからの時代を生きる子どもたちが、困難に直面した時も、自らそれに立ち向かっていける知力と体力を身に付け、たくましく生き抜いていくことを目指す健康教育や食育を推進するための具体的な方策を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1)心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進

朝食をとらない、自分で起きることができないなど、子どもたちの体の変調が問題視されている。

このような状況にあって、食事、運動、休養、睡眠などの重要性を理解し、自らの基本的な生活習慣を見直すことや、心と体の密接な関連性を理解し、様々な欲求やストレスに対して、状況に合わせて適切に対処できる力を育てることは重要な課題である。さらに、生活習慣病や基本的な感染症に関する知識をもち、個人でできる予防手段を講じることができるなど、自分の体への関心を高め、生涯にわたって健康を維持できる能力を育む必要性が叫ばれている。

心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進のために、校長が果たすべき役割と指導性を究明する。

(2)望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実

メンタルヘルスに関わる課題やアレルギー疾患など子どもの心と体に関する様々な健康問題が生じている。さらに、子どもたちの食生活において朝食をとらない、偏食、孤食といった課題が生じており、生活リズムを身に付けさせることや生活習慣病を予防するために、正しい食に関する知識と望ましい食習慣を育むことが大切である。

食育の指導にあたって、養護教諭や栄養教諭の主体的な関わりとともに、全教職員それぞれの役割を明確にし、相互の効果的な連携と取組の体制確立のために、校長が果たすべき役割と指導性を究明する。